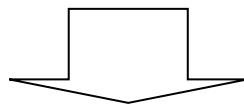


	育てたい力	具体的な授業改善策
国語	<ul style="list-style-type: none"> ・相手や目的に応じ、調べたことなどが伝わるように、段落相互の関係などに注意して文章を書く力や、工夫しながら書こうとすること。 ・基礎・基本の学習を活用すること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「自分の意見やその理由」「条件に合わせた物事の説明」など、目的に応じた短文を書く活動に焦点を絞り、継続して日常的に取り組むようにする。 ・主体的・対話的で深い学びを意識した単元学習を継続して実施する。特に、読みの単元においては、考えを書いたり友達と話し合ったりする場を必ず取り入れ、考え表現する時間の確保を心がける。
社会	<ul style="list-style-type: none"> ・社会生活の様子や仕組みなどの基礎的な事項を理解すること。 ・資料を読み取り、正しい知識を用いて、考察したり表現したりすること。 ・児童が主体となって学習課題について追及すること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生活体験や既習事項と比較したり、関連付けたりして理解が深まるよう、問いや資料を明確にして単元を構成する。 ・グラフ、写真、表など視覚的に分かる資料を提示し、そこから何が読み取れるかを考えさせ、資料を読み取ることができるようにする。 ・「問題に気付く→学習課題を作る→計画を立て、学習問題を追及する→まとめる」という学習の流れを明確にして、定着できるようにする。
算数	<ul style="list-style-type: none"> ・題意を正しく理解して立式したり、問題を解決した後、それが問題場面に合っているのか確認したりすること。 ・自分の考えを周囲の友達に、分かりやすく伝えようとしたり自分の考えと比べて聞き、意思表示したりすること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・四則計算の意味を確認し、文章題の場面を正しく表現できるようにさせる。また、解決できたら問題場面に当てはめて確認したり検算したりするように繰り返し指導し、解いたら確認するという意識を育む。 ・自分の考えに自信をもって発表することができるよう、少人数やグループでの交流を行ってから、全体交流の時間をもつ。また、意思表示の方法としてネームプレートを活用する。
理科	<ul style="list-style-type: none"> ・実験の結果から、結論を導き出すこと。 ・根拠を示して論理的に表現すること。 ・学習したことを日常生活に結び付けて考えること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「課題→予想→実験計画→結果→考察」の問題解決の流れが明確になるように、板書やノートをまとめられるようにする。 ・自分の考えをまとめる時間を確保し、言葉だけでなく絵、表、図で表現できるようにする。 ・身の回りの事象を、働きや時間などと関係付けて考えることができるようにする。
体育	<ul style="list-style-type: none"> ・活動を工夫して各種の運動を楽しくできるようにすること。 ・協力、公正などの態度で運動に取り組むこと。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の主体的な発言を基にルールを変えたり、技能を向上させる方法を指導したりすることで、運動の機能的特性を味わい、児童主体の学習となるように指導する。 ・準備・片付けの手順やルールの改善などで指導や話し合いが必要な際は、十分に時間を確保する。
道徳	<ul style="list-style-type: none"> ・道徳的価値について、自らすすんで考えること。 ・友達と考えを交わしたり、さらに考えを深めてノートに書いたり、表現したりすること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・時間ごとの教材研究を十分に確保し、児童が主体的に考えようとする発問・展開を準備する。 ・話し合う時間や全体で共有する時間、ノートなどに思いを書きとめるため、振り返りの時間を、授業の中で必ず取り入れるようにする。

総合	<ul style="list-style-type: none"> 目的に応じて、様々な資料や方法で学習を進め、有効に活用すること。 適切に ICT を活用し、課題に対して追求すること。 	<ul style="list-style-type: none"> 図書資料、新聞、インターネット、インタビューなどの基本的な利用方法や技能の指導を積極的に授業で取り扱う。 探求課題について知る場面や調べる場面、まとめる場面、深める場面それぞれで ICT を効果的に活用する。
外国語	<ul style="list-style-type: none"> 自分のことや身の回りの物を表す簡単な語句を聞き取ること。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の好きな色や食べ物、持ち物など自分の身の回りの物を表す語句を、イラストや写真などを提示しながら聞き取れるようにする。ゲームや歌、チャンツを通して楽しみながら語句を習得できるようにする。
音楽	<ul style="list-style-type: none"> 曲想と音楽構造の関わりに気付き、表したい音楽表現をするための技能を身に付けること。 音楽表現を工夫し、どのように表すか思いや意図をもつことや、曲や演奏のよさなどを見いだしながら音楽を味わって聴くことができるようにすること。 すすんで音楽に関わり、協働して音楽活動をする楽しさを感じながら様々な音楽に親しむこと。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業のねらいを明確にし、旋律、リズム、強弱、速度、音色などと曲想との関わりについて気付くようにする。特にリコーダーの奏法を身に付けることができるように、一人ずつ聴く機会や発表の仕方を工夫する。また、互いの声や音を常に聴き合うことを意識するようにする。 音楽を聴いて感じたこと、気付いたことを基に、互いの思いを共有しながら表現の工夫ができるようにする。また、曲や演奏のよさを伝えるためにも言語活動を大切に、児童の発言を生かした言葉や曲想を表す言葉を掲示し、音楽的語彙を増やしていく。 互いに聴き合う活動、友達と合わせる楽しさを味わえる活動を多く取り入れる。表現、鑑賞の活動をバランスよく行う。また、器楽ではスモールステップ、発展教材などを用意し、どの児童も意欲的に活動できるようにする。
図工	<ul style="list-style-type: none"> 身近な材料や場所から、自ら造形的な活動を思いつき、表したいイメージをもったり、表し方の工夫を考えたりしながら手や体全体を動かし工夫を重ねること。 身近にある作品から、造形的なよさや表し方の工夫などを感じ、自分の見方や感じ方を広げること。 自分の表したいことを見つけ、主体的に表現すること。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童が活動しやすい場の設定を考える。必要に応じて図工室以外の場での活動も取り入れていく。 鑑賞の際、いくつかの視点を提示し、気付きを深めることができるよう指導にあたる。 発想の補助となるような資料やワークシートを適宜用意する。また、導入の工夫をする。



国語	<p style="text-align: center;">成果○ と 課題▼</p> <p>○自分の考えについて根拠をはっきりさせてノートにまとめることができるようになってきた。自分なりにまとめ方を工夫している児童も増えた。ノートが学習の軌跡として役立つということが、少しずつ浸透してきた。また、文章全体をいつも見渡しながらかみ取っていく方法に児童が慣れてきている。大切な叙述にサイドラインを引き、それを手がかりに要約したり、引用したり、心情の変化をかみ取ったりできるようになってきた。</p>
----	---

	<p>○児童と共に単元の終末活動を見通して学習計画を進める授業が定着し、積極的に学ぶ姿や、楽しく学習する姿が増えてきている。</p> <p>▼自分の考えをノートには書けているが、全体の交流の場で自分から発言できる児童が限られている。教師側で意図的な指名をしたり、ノートに書いた考えをほめて自信をもたせたりしていくことが今後も必要であり、意見の交流の方法もペアやグループ、全体と段階を経た工夫が必要である。</p>
社会	<p>○タブレットの活用等、調べ学習が充実したことで、基礎的な事項への理解が深まった。</p> <p>○資料を厳選し、資料一つ辺りの読み取りの時間を多く確保したことで、多様な視点から読み深める力が身に付いた。</p> <p>○モデル学習として単元の流れをつかみ、次単元で同じ流れで活用する計画にすることで、児童がより主体的に学習に取り組むことができた。</p> <p>▼個別最適化の学習を進める上で、児童一人一人の学習状況を的確に把握する方法が必要である。</p>
算数	<p>○コースごとのクラス分けにより、より意欲的に学習することにつながっていた。</p> <p>○じっくりコースにおいては、少人数担当と連携し基礎的な力を重点に取り組むことで、児童の算数に対する意欲を高めることにつながってきている。</p> <p>▼定着させるための時間や内容について工夫・改善を図っていく。</p>
理科	<p>○1年を通して、実験・観察の記録の仕方や、考察の書き方を同じ方法で取り組んできたため、問題解決の流れを意識できるようになった。予想や結果を、言葉だけでなく絵や図、表で表現したり、自分の生活体験や既習事項を重ねて、自分の考えを書いたりする児童が増えてきた。</p>
体育	<p>○整列や準備を素早くすることで、活動の時間が確保できることを意識して動けるようになった。</p> <p>○体育タイムや休み時間などを使って、チームで練習をしたり、ゲームの作戦を考えたりしていた。また、どのようなルールを作ったら、全員が楽しめるか話し合い、工夫することができた。</p> <p>○学習カードを使うことで、児童一人一人がめあてをもち、学習の振り返りができた。次時や単元全体を通じて意欲向上につながった。</p> <p>▼個別の課題に対して、どのようにしたらできるようになるかを的確に助言したり、練習方法を提示したりするなど、今後も工夫していく。</p>
道徳	<p>○学校の重点項目に挙がっている内容項目について、友達と交流し意見を交わしながら考える場面を設けることで、価値の理解を深める機会が増えてきた。また、個人差はあるが自分なりの考えをノートに書くこともできるようになっている。</p> <p>▼指導上の発問や取り組みの中で児童の考えの深まりに手ごたえを感じにくい内容項目もある。また、自分に置き換えて考えたり、価値について深く考えたりすることが難しい児童もいる。考えるきっかけとなる発問や教材の視覚化（板書）などをさらに工夫していく必要がある。</p>
総合	<p>○2学期の「防災について考えよう」では、社会科の学習を基に災害が起こったときにどのように対応したら良いのか理解を深めた。3年生へ向けて防災の大切さを伝えるために、防災体験学習を通して実際に体験したことを、タブレットを活用して本を作った。</p> <p>○3学期の「10歳を祝う会」では、自分の10年間を振り返ったり、これからの自分に向けて考えを深めたりした。今思っている自分の好きなことを基に、将来に向けてどんな職業が自分に向いているかを考えたことをプレゼンテーションソフトにまとめ、発表をした。</p> <p>▼調べる段階では、インターネットなど、パソコンを活用することができた。しかし、児童が主体的に画像を取り入れたり文をまとめたりという発表での活用はなかなかできなかった。継続して、様々な調べ方やまとめ方があることを知らせていく。</p>
外国語活動	<p>○自分の好きな色や食べ物、持ち物、学校内の施設の言い方など自分の身の回りの物を表す語句を、イラストや写真などを提示しながら行うことで少しずつ聞き取れるようになってきている。</p> <p>○自分の好きなものやお気に入りの場所を伝える表現の仕方を使い、友達とやり取りを通して、楽しみながら取り組む姿が増えてきた。</p> <p>▼活動を始める際の説明の部分につまずきを抱える児童が多い。ジェスチャーやモデルワークを取り入れ、児童がスムーズに活動に取り組めるようにする必要がある。</p>
音楽	<p>○ねらいを精選し明確に提示することで、常に児童がめあてをもち、学習に取り組む流れができた。</p> <p>○児童の発言や記録を価値づけたり、全体共有する時間をもち掲示したりするなど言語活動に取り組んだことで、児童の発言が増えてきた。</p> <p>○音楽会を通して互いの音を聴き合い、合わせようとする意識が高まった。また他学年の演奏の鑑賞を通</p>

	<p>して、共通点や相違点等、音楽に対する多様性の意識が児童に広がる様子が見られた。</p> <p>▼言語活動が活発になってきた一方で、発言を躊躇したり、知覚のみに偏りがちな児童がいたりするなど個人差が見られる。全体やグループでの共有に加えて、自分の生活体験や音楽の諸要素との関連付けをはかる場面設定を増やし、児童がより音楽を身近な存在として捉えられるようにする。</p> <p>▼リコーダー学習の時間が少なかった。技能面等次年度へ適切に引き継ぐようにする。</p>
<p>図 工</p>	<p>○鑑賞の視点を全体指導でおさえることで、作品を細部までみたり、自分なりの感じ方を伝えたりしようとする姿が見られた。</p> <p>○視覚資料だけでなく、導入の段階で自分の発想をたくさん発表する場面をとった。友達の発想をもとに、自分のやりたいことを見付けている様子の児童もいた。</p> <p>▼造形遊びなど、ダイナミックな活動を取り入れる事ができなかった。感染症の状況を見ながら、可能な範囲でできる内容を考える必要がある。</p>